

経営現況報告会

株式会社アドバネクス

2017年6月22日

本資料は2017年3月31日現在のデータに基づいて作成されております。
本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、予告なしに変更されることがあります。

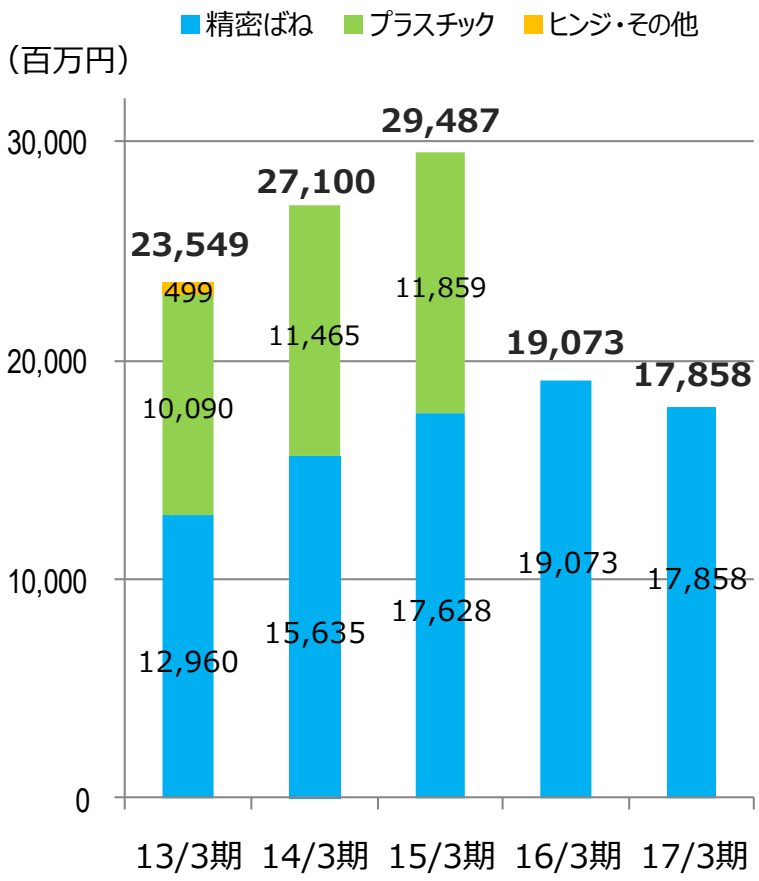
主な内容

1. 業績推移
2. 2018年3月期業績見通し
3. 中期経営計画の目標年度見直し
4. 今後の事業方針

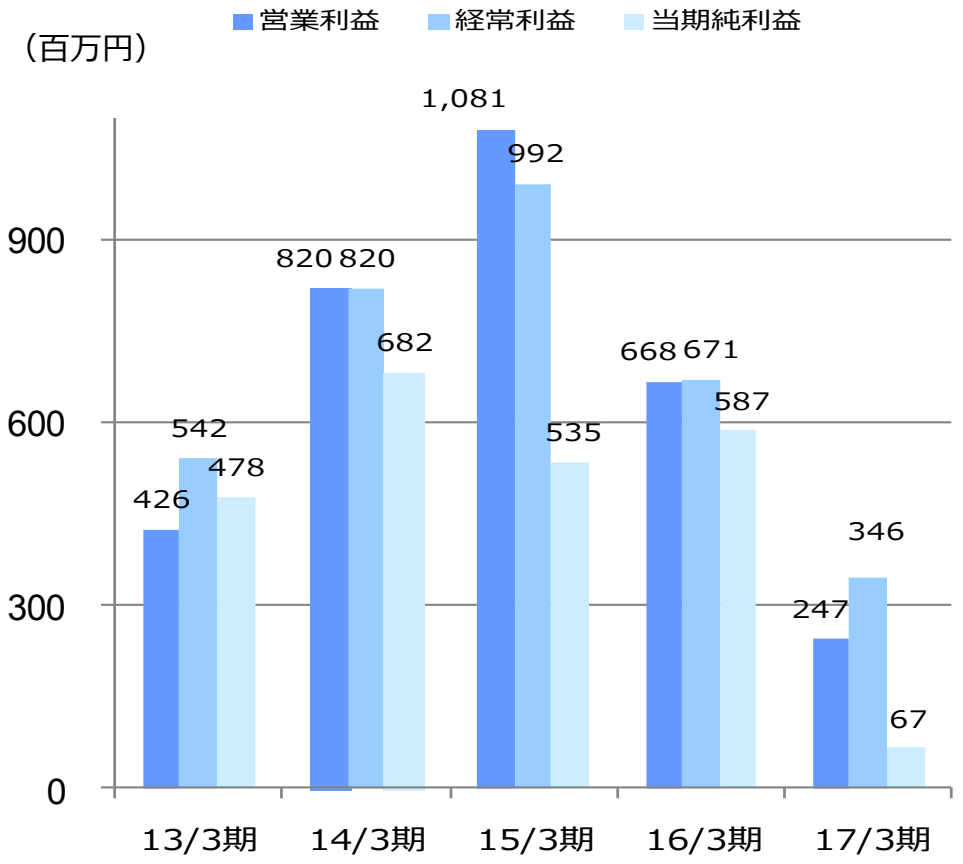
1. 業績推移

1-1. 業績推移（連結）

売上高

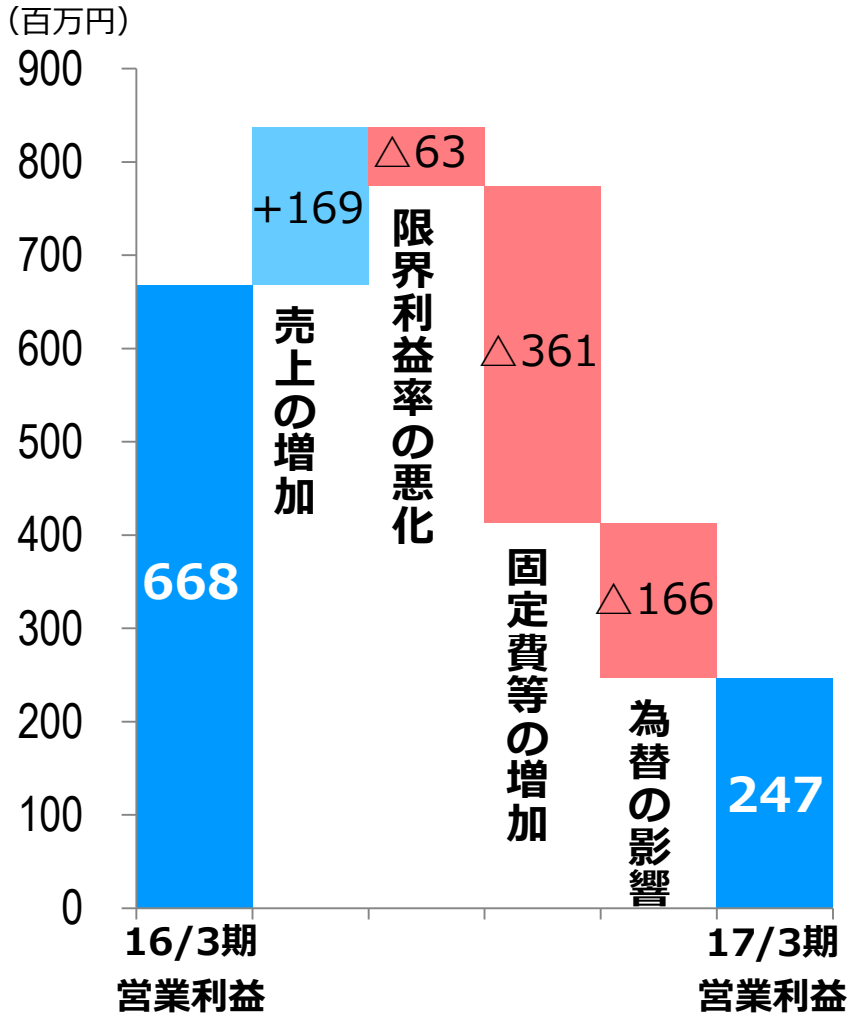


営業・経常・当期利益



1-2. 営業利益差異分析

営業利益差異



前期からの変動要因

前期に比べ営業利益は△421百万円だが、
為替の影響や投資の固定費増を除けば増収増益

- ●売上増による要因：+169百万円
- ●限界利益率の悪化による要因：△63百万円
  新工場のロスコストや、ＯＡ機器向け減少による
  プロダクトミックスの悪化
- ●固定費の増加による要因：△361百万円
  埼玉工場、メキシコ第２工場など新工場開設に
  より固定費・経費が増加
- ●為替の影響：△166百万円
  円高（ドル安・ポンド安）1US$=¥120.2→¥109.2

1-3. 連結市場別売上高

（単位：百万円）

	16年3月期		17年3月期		増減	
	売上	構成比	売上	構成比	額	増減率
自動車(輸送機器)	6,984	36.6%	7,278	40.8%	294	4.2%
ＯＡ機器	4,186	21.9%	3,631	20.3%	△555	△13.3%
医療機器	1,794	9.4%	1,290	7.2%	△503	△28.5%
精密機器	1,183	6.2%	1,144	6.4%	△39	△3.3%
住設機器	910	4.8%	832	4.7%	△78	△8.6%
PC・周辺機器	634	3.3%	558	3.1%	△76	△12.0%
AV・家電	539	2.8%	537	3.0%	△2	△0.4%
航空機器	634	3.3%	519	2.9%	△115	△18.1%
携帯情報端末	509	2.7%	246	1.4%	△263	△51.7%
その他	1,700	8.9%	1,823	10.2%	123	7.2%
合計	19,073	100.0%	17,858	100.0%	△1,214	△6.4%

16年3月期レート：　1US$＝120.2円
17年3月期レート：　1US$＝109.2円

（参考）連結市場別売上高

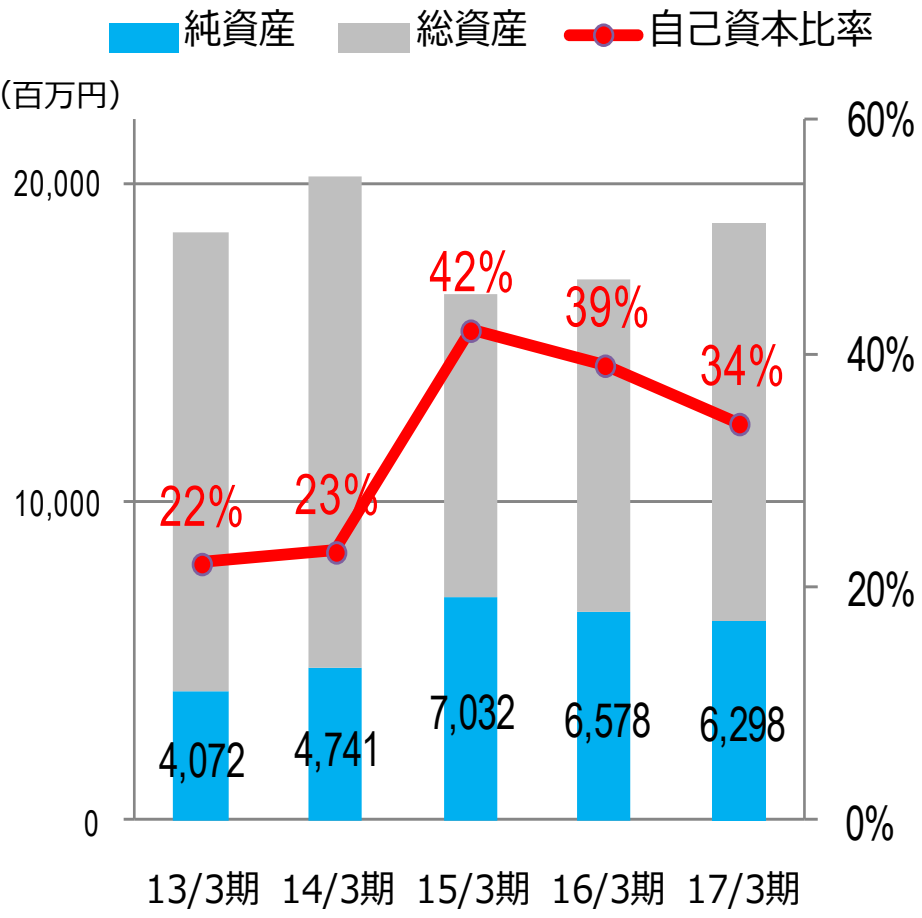
17年3月期実績を前期のレートで換算
（1US$=120.2円）した場合

（単位：百万円）

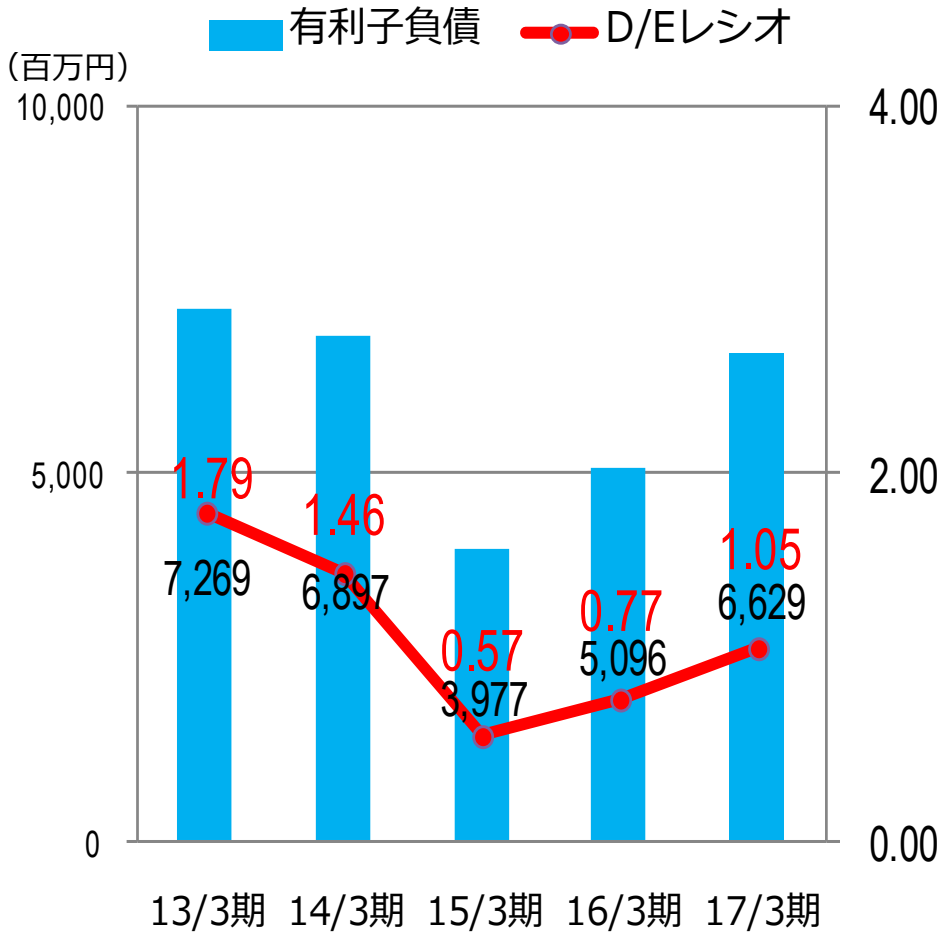
	16年3月期		17年3月期		増減	
	売上	構成比	売上	構成比	額	増減率
自動車(輸送機器)	6,984	36.6%	7,812	40.4%	827	11.8%
ＯＡ機器	4,186	21.9%	3,842	19.9%	△344	△8.2%
医療機器	1,794	9.4%	1,506	7.8%	△287	△16.0%
精密機器	1,183	6.2%	1,231	6.4%	48	4.1%
住設機器	910	4.8%	890	4.6%	△21	△2.3%
PC・周辺機器	634	3.3%	582	3.0%	△52	△8.2%
AV・家電	539	2.8%	591	3.1%	52	9.7%
航空機器	634	3.3%	638	3.3%	4	0.6%
携帯情報端末	509	2.7%	255	1.3%	△254	△49.9%
その他	1,700	8.9%	1,980	10.2%	280	16.4%
合計	19,073	100.0%	19,327	100.0%	254	1.3%

1-4. 財政状況の変化（連結）

総資産・純資産

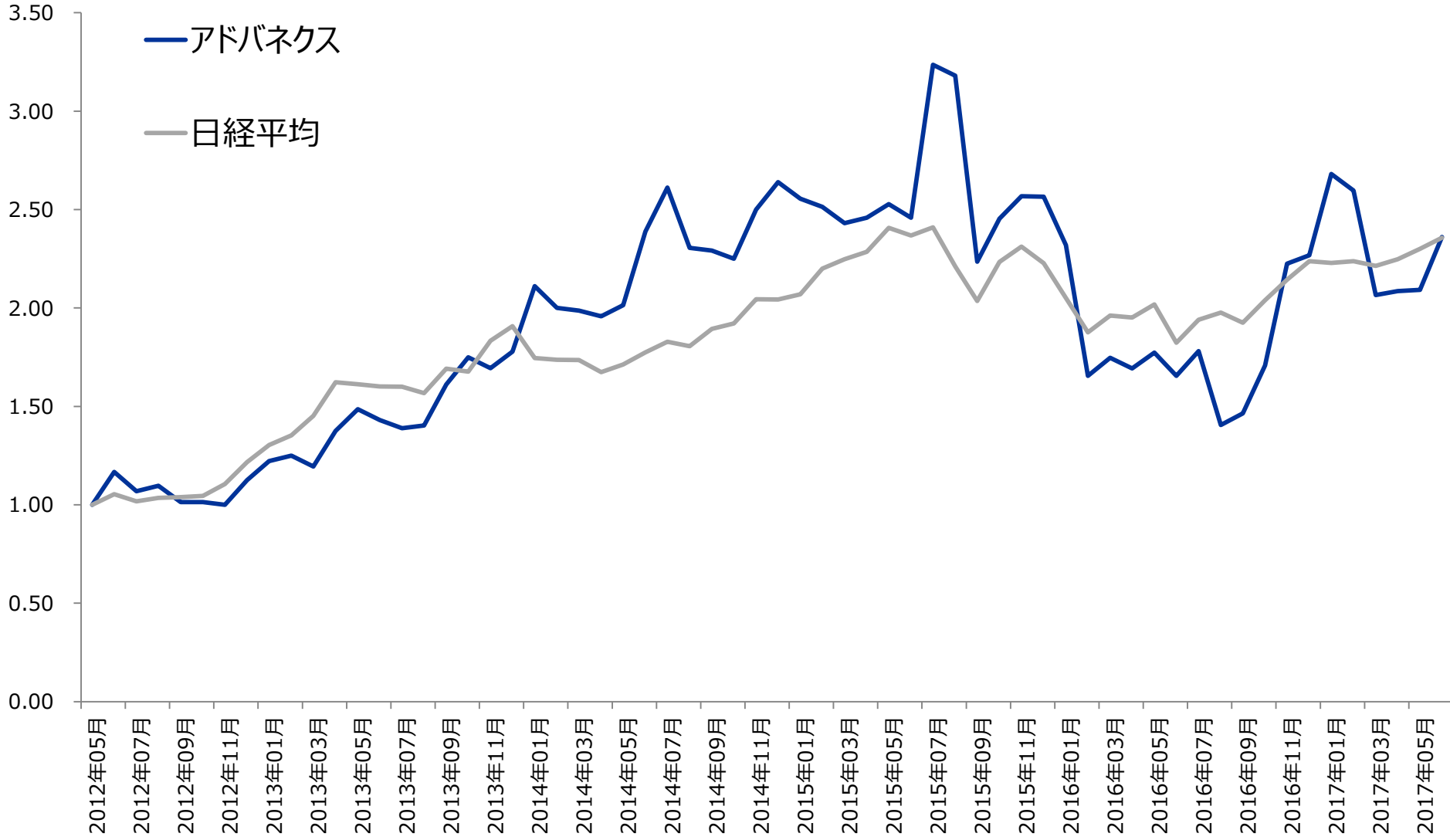


有利子負債



1-5. 株価推移（５年間）

日経平均とのパフォーマンスを比較



2.　通期連結業績予想

2-1. 2018年3月期通期業績予想（連結）

（単位：百万円）

	2017年3月期 (実績)	2018年3月期 (予想)	通期増減	
			額	率
売上高	17,858	20,000	+2,142	+12.0%
営業利益	247	400	+154	+62.6%
営業利益率	1.4%	2.0%	-	-
経常利益	346	380	+34	+9.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	67	240	+173	+258.2%

2-2. 株主還元

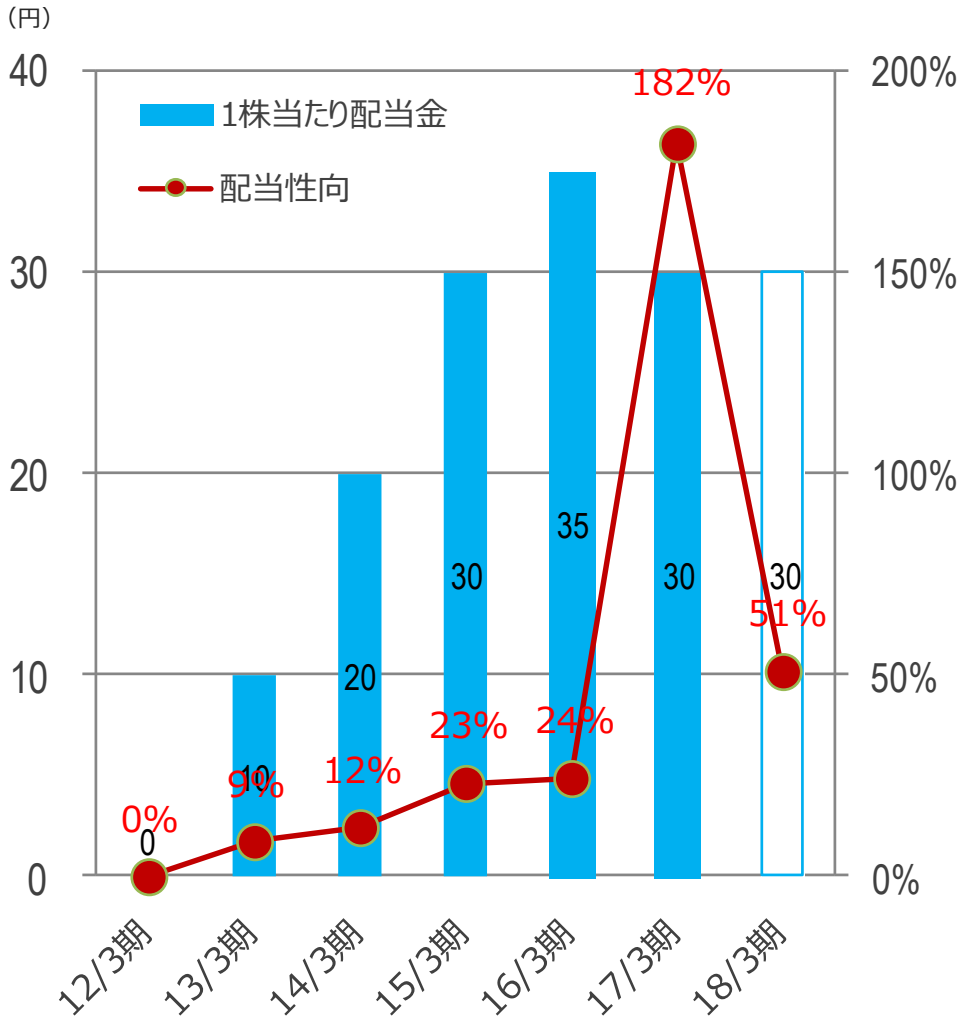
1）配当

- 2017年3月期配当実績30円
  （配当性向182%）

- 2018年3月期配当予想30円
  （同51%）

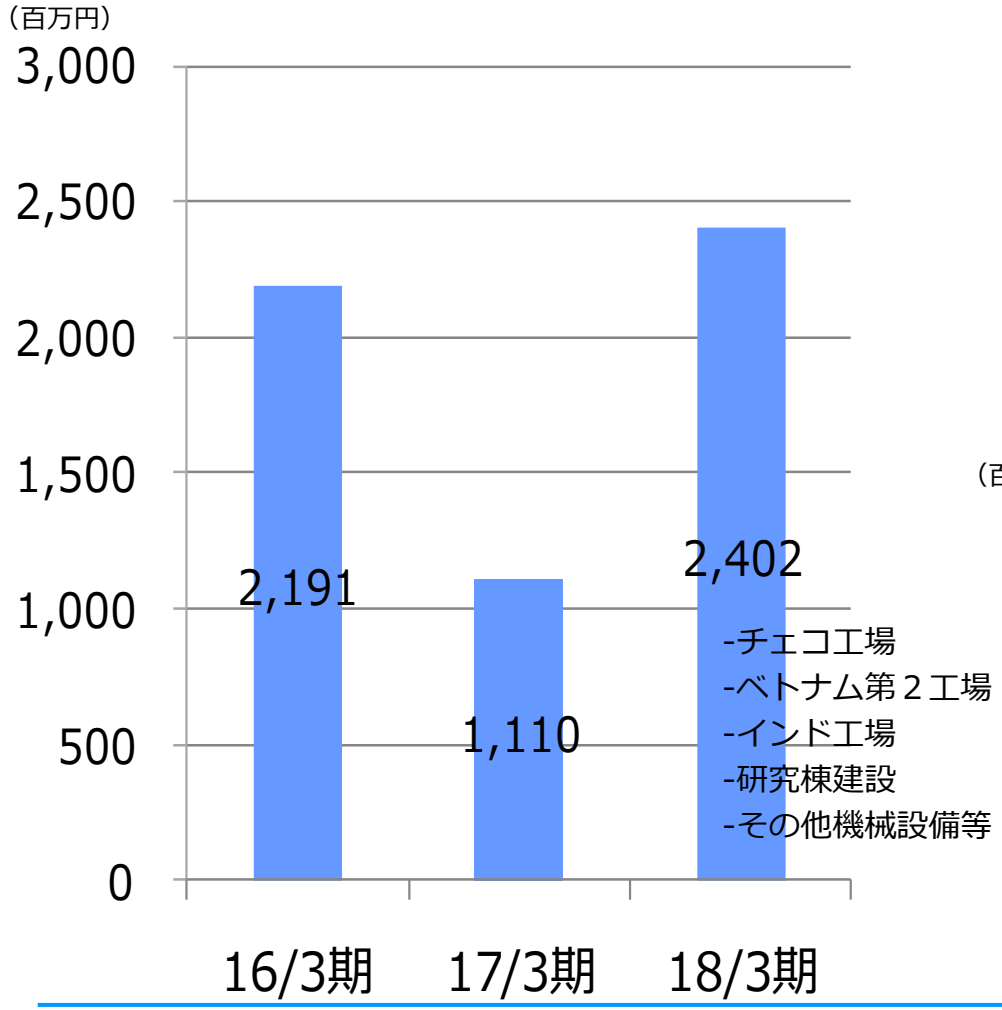
2）株主優待

- 1単元（100株）以上を１年以上継続して保有いただいた株主様を対象に保有株式数に応じて、年１回クオカードをお送りしています。

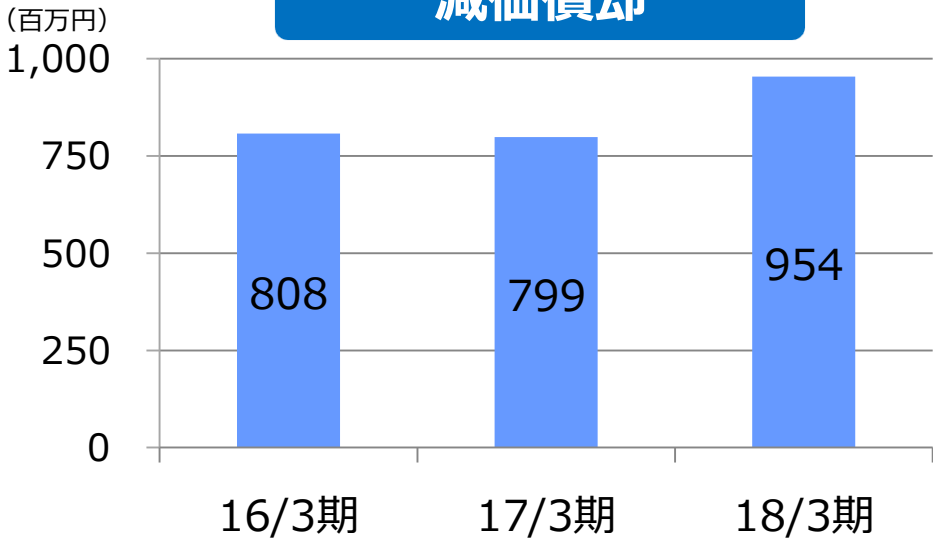


2-3. 設備投資・減価償却・研究開発

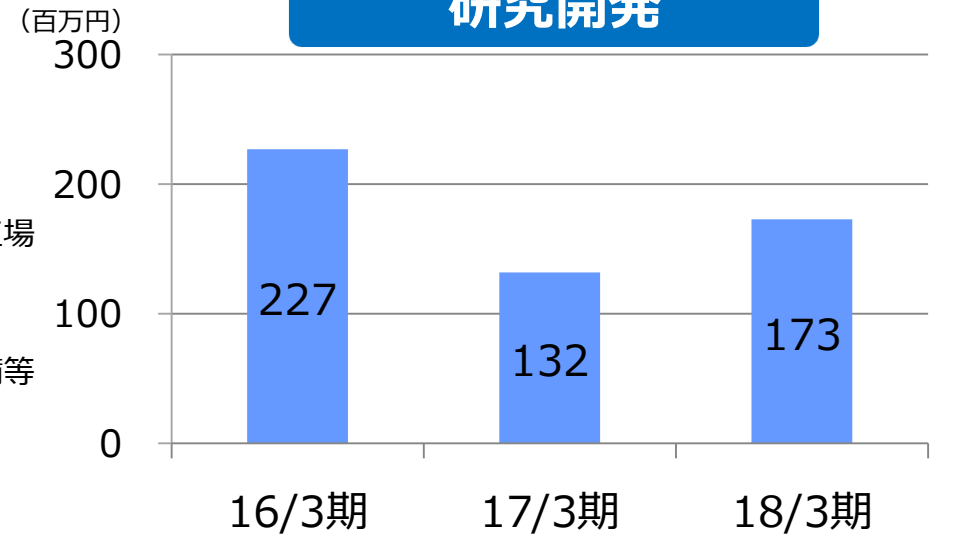
設備投資



減価償却



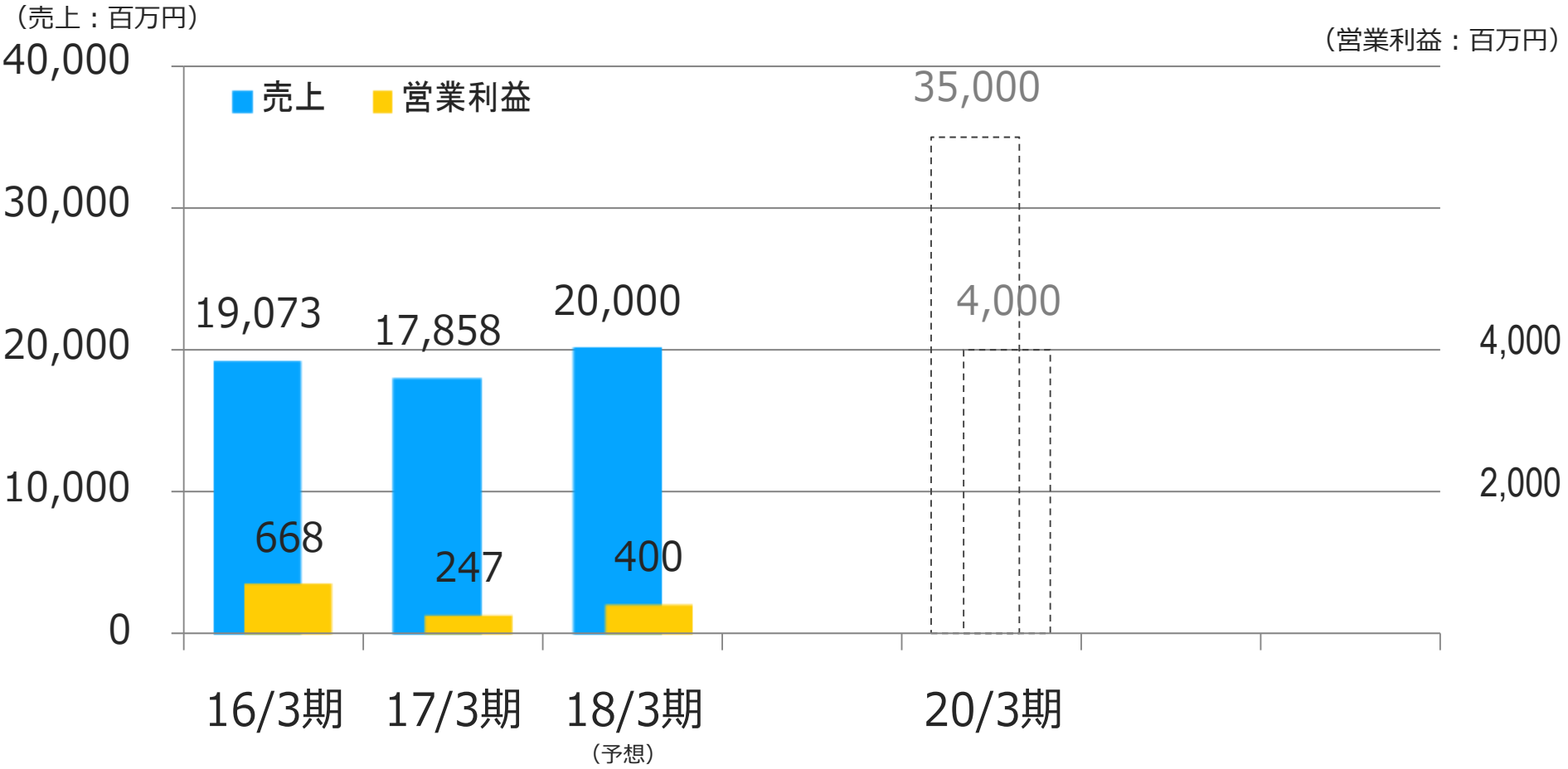
研究開発



３．中期経営計画の目標年度見直し

3-1.　中期経営計画の目標年度見直し

数値目標（売上350億円、営業利益40億円）は変えずに目標年度を見直し
あと2年での達成は困難、現在精査中



3-2①.　目標年度見直しに至った要因

- OA機器向け売上が計画比半減

（想定どおりであれば2017/3期は計画線上）

- 円高

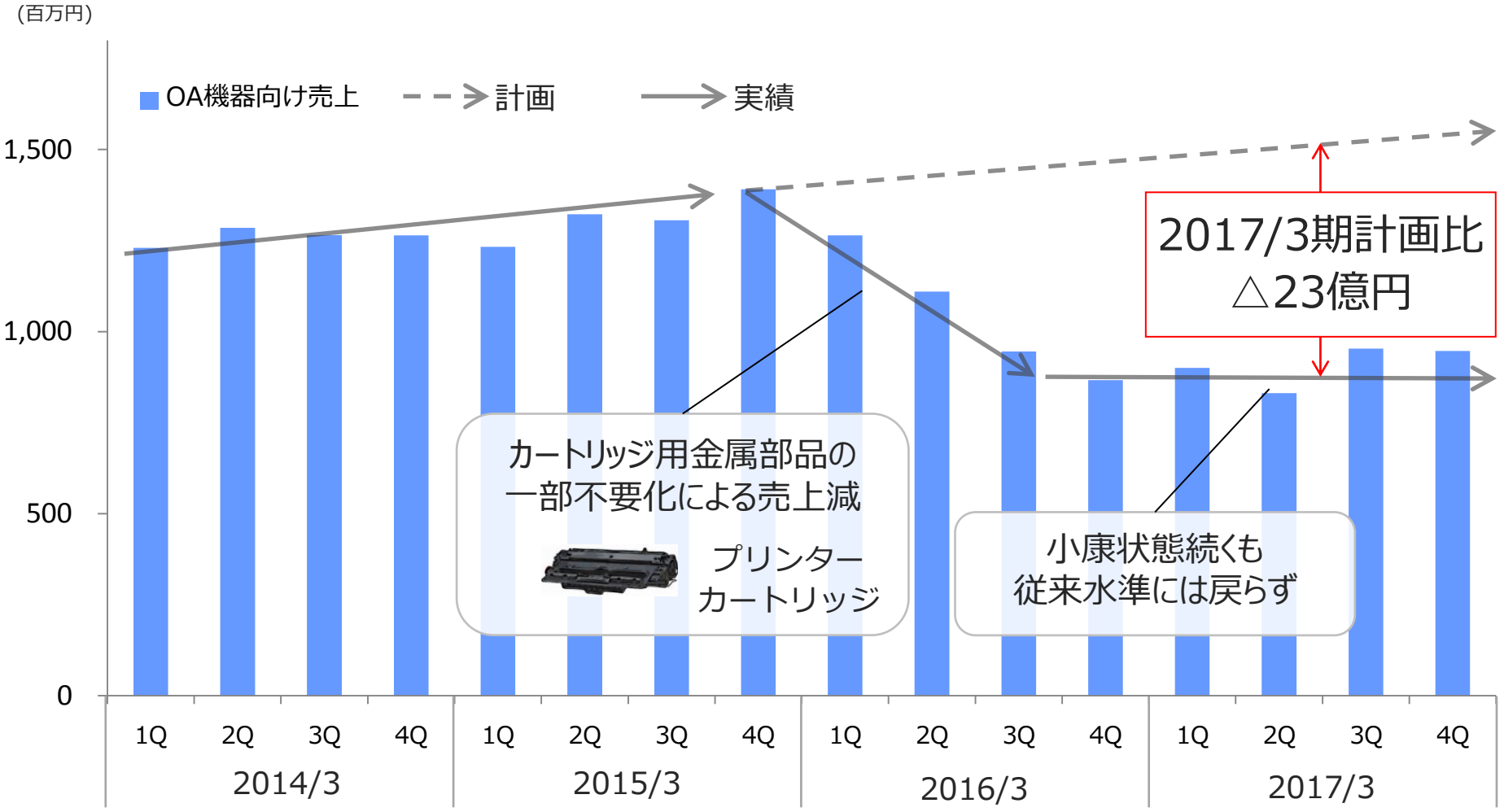
（中期経営計画の想定レートは１US$=¥120）

- 一方、先々の見通しは明るい

（自動車は実績・見通し共にほぼ計画通り。事業方針に変更無し）

3-2②.　目標年度見直しに至った要因

OA機器向け売上が計画を大きく下回る



カートリッジに使用されていた金属部品が顧客製品の構造変更により不要となり、以降大幅減収

4. 今後の事業方針

4-1①. 新工場・新拠点

2017/3期実績

16年4月	メキシコ第2工場を開設
16年4月	中国天津に営業所を開設
16年4月	ドイツに販社(Advanex Deutschland GmbH)を設立
16年10月	米国にアメリカ第2工場を開設(Electronic Stamping Corporationから事業譲受)
17年1月	PT. Yamakou Indonesia（インドネシア工場）を完全子会社化

2018/3期予定

17年秋	新潟工場に技術棟を建設
18年2月	チェコ工場(Advanex Czechia s.r.o.)を設立
18年	ベトナムにベトナム第2工場を開設
18年	インドにインド工場を開設

4-1②. 新工場･新拠点



メキシコ第2工場

建屋面積: 6,000㎡(第1期は3,000㎡)

主要製品: 線ばね、板ばね、インサートモールド

売上計画: 6億円（2020/3期）

操業開始：16年4月

4-1③. 新工場･新拠点



アメリカ第2工場

建屋面積: 4,000㎡

主要製品: プレス、板ばね

売上計画: 3億円（2018/3期）

事業譲受: 16年10月(Electronic Stamping Corporationから譲受)

4-1④. 新工場･新拠点



インドネシア工場(PT. Yamakou Indonesia)

建屋面積: 3,400㎡

主要製品: 精密プレス、インサートモールド

売上計画: 15億円（2017年）

子会社化: 2017年1月

4-1⑤. 新工場･新拠点



新潟工場技術棟

建屋面積: 472㎡

完成　　：2017年秋予定

4-1⑥.　新工場･新拠点



チェコ工場

建屋面積: 8,500㎡（第一期は5000㎡）

主要製品: 線ばね、板ばね、深絞り

売上計画: 20億円（2022/3）

操業開始: 2018年予定

4-1⑦.　新工場･新拠点



ベトナム第2工場

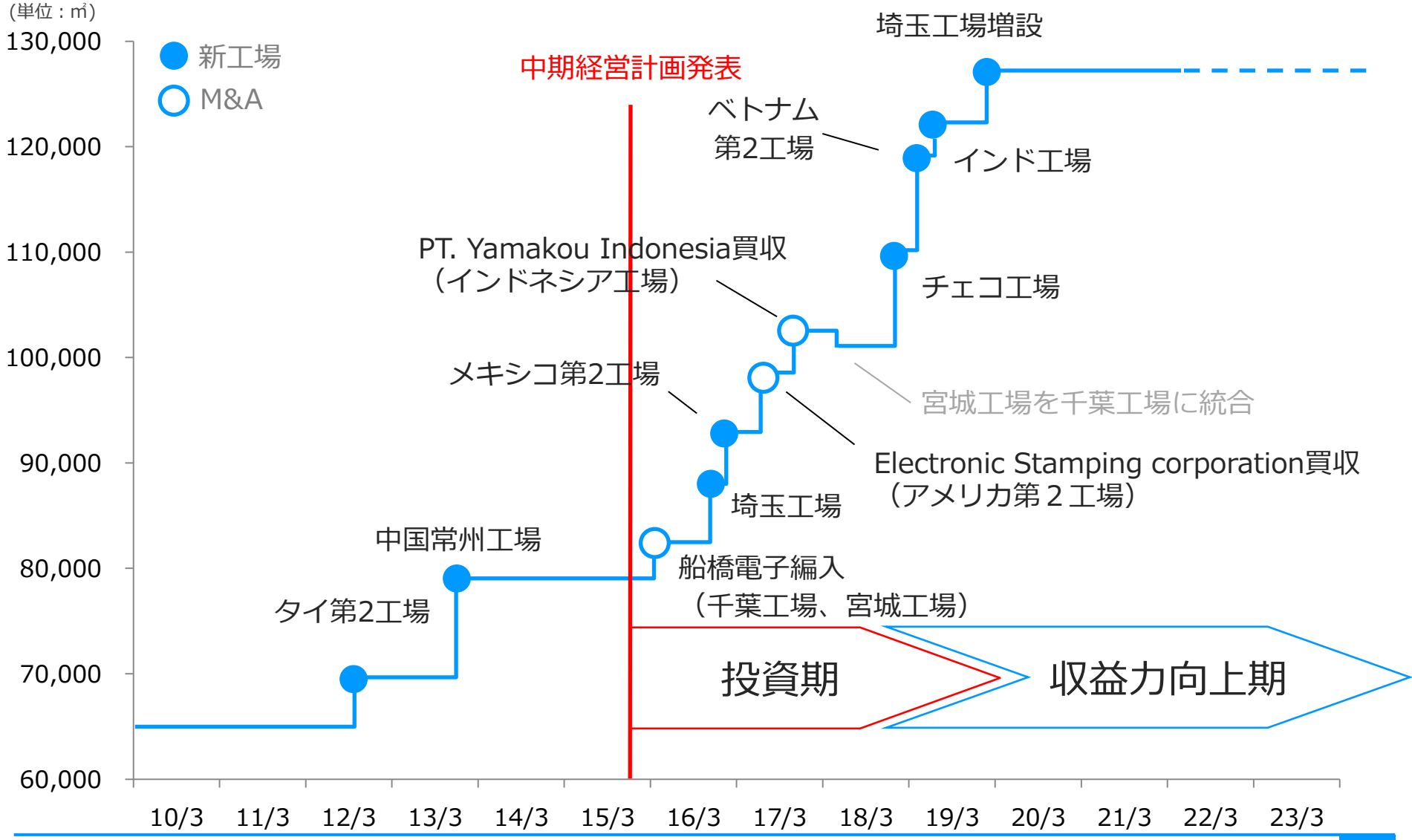
主要製品: 線ばね、板ばね

売上計画: 20億円(2020/3)

操業開始: 2018年予定

4-1⑧. 工場総面積推移

投資から収益力向上にシフト



4-2①.　自動車市場



- 多くの顧客が当社の利便性を認識
- 当社の様なグローバルメーカーに集中する傾向
- 深絞り、インサートモールドは想定以上の引合い

自動車向け



インサートカラー



深絞り



インサートモールド



押しばね



トーションばね



板ばね

4-2②．自動車市場：日系企業の海外進出状況

海外に10拠点以上を持つ二次部品メーカーは稀有、かつ有利

	社数	海外進出率	海外１０拠点以上
 自動車メーカー	１０社	１００%	１００%
 一次部品メーカー	６０５社	８０%	５０% (当社推定)
 二次部品メーカー	７，０００社以上	１４%	**０．１%前後(当社推定)** ADVANEX 他数社

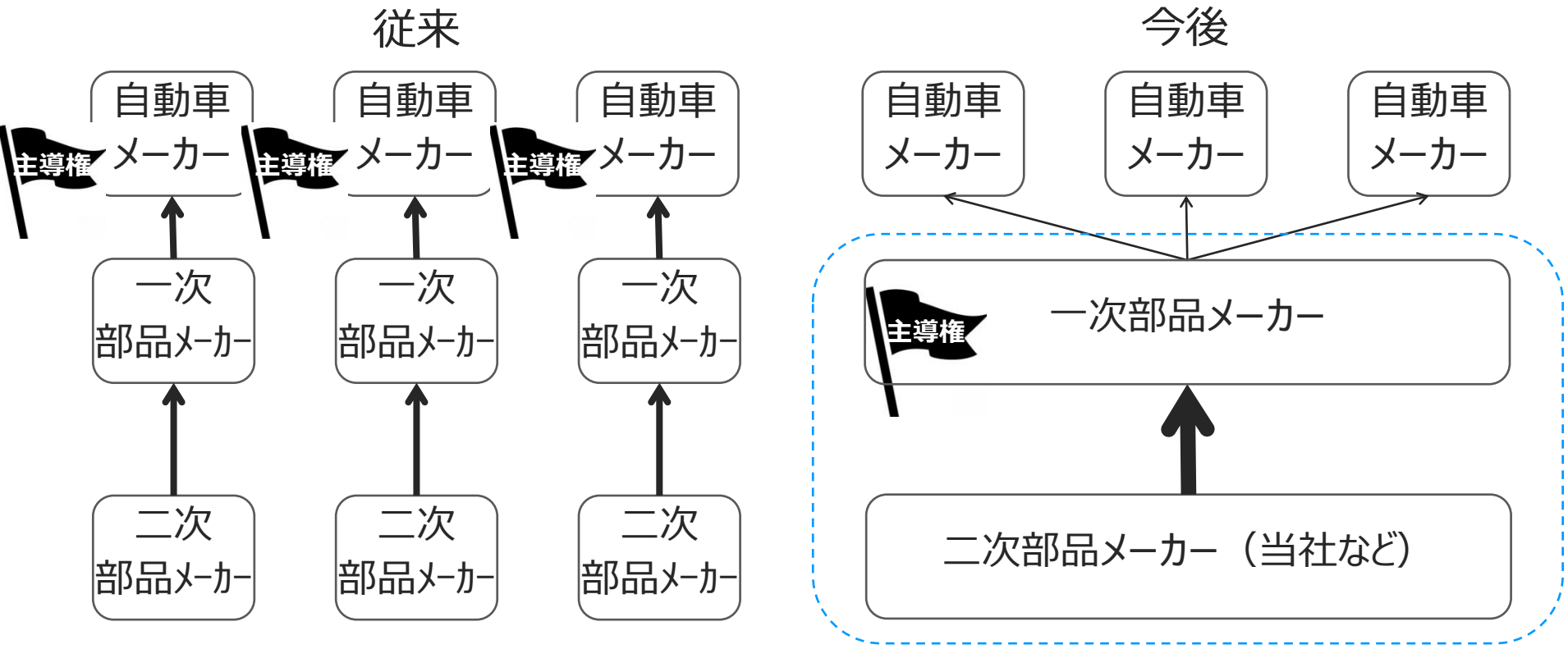
「高収益企業の特徴は、第一に不透明な情勢の下でともかくも海外進出を果した企業であり、・・」

「海外展開と新技術開発をめぐって部品メーカー・関連サプライヤーの２極化が鮮明である」

２１世紀自動車産業グローバル化の特質と日本中小企業の経営環境変化(関東学院大学 清晌一郎教授)より引用

4-2③. 自動車市場：サプライチェーンの変化

一次部品メーカーの影響力増大
当社のような グローバル二次部品メーカーに注文が集中

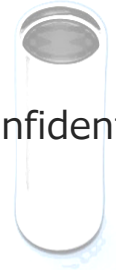


二次部品メーカーへの要求

- グローバル供給体制
- 財務力、経営の持続性
- 開発力、対応力、提案力

4-2④.　自動車市場：深絞り、ｲﾝｻｰﾄﾓｰﾙﾄﾞ

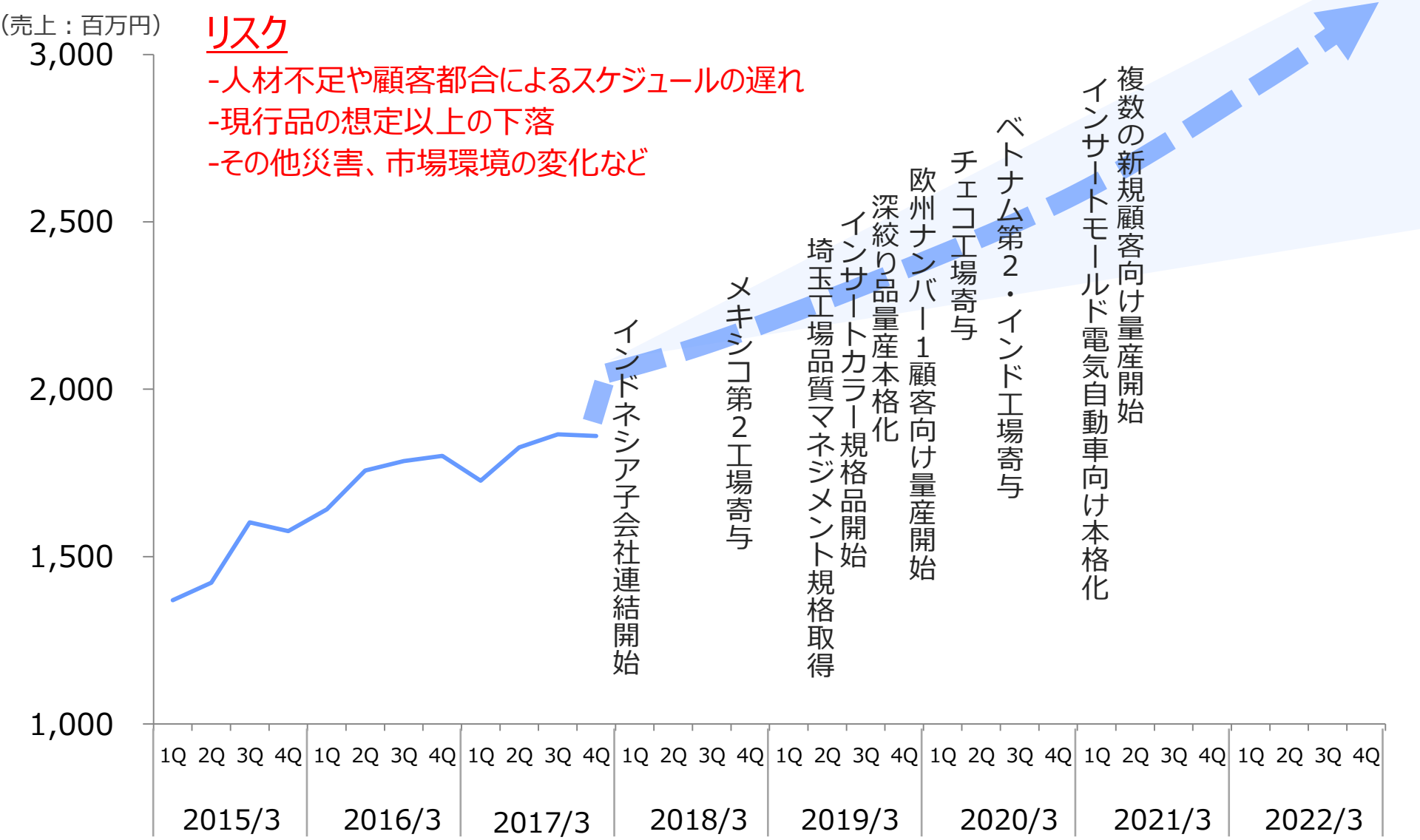
インサートモールド、深絞りの引合いは想定以上、EV向けも

	参入製品		発展製品	
自動車				
	自動車センサー用 インサートモールド	自動車センサー用 深絞り	EV･HEV用 インサートモールド	EV･HEV用 深絞り
家電・精密				
	インサートモールド	深絞り	家電・精密向け インサートモールド	家電・精密向け 深絞り

Confidential
Confidential

4-2⑤. 自動車市場：イベントと売上見通し

成長ドライバーは2019/3期以降に集中



4-3①.　医療市場

- 地球温暖化、新興国の富裕化でマーケット拡大
- 当社ばね採用のセルフメディケーションキットが増加
- 医療でもグローバル体制は有利



医療向け



トーションばね



押しばね

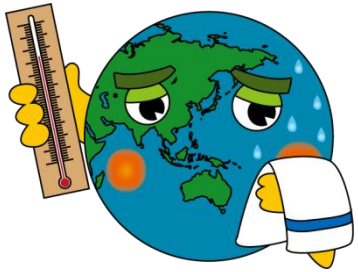


薄板長巻ばね

4-3②.　医療市場：需要拡大の背景

地球・経済環境の変化により喘息薬・糖尿病薬の需要増加

喘息薬の市場背景


地球温暖化　→


花粉増加（ﾌﾞﾀｸｻなど）→

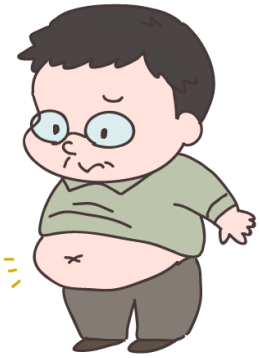

喘息患者増加　→


喘息薬需要増加

糖尿病薬の市場背景


新興国所得増加　→


飽食化　→


糖尿病患者増加　→


インスリン注射器需要増加

4-3③.　医療市場：主力製品

当社ばね採用のセルフメディケーションキット
喘息吸入キットは倍増へ、インスリン注射キットは2021年量産開始



喘息吸入薬キット



当社供給ばね(類似品)



インスリン注射キット



当社供給ばね･深絞り(類似品)

ぜんそく患者が世界で急増、2億人超えた　WHOが地球温暖化の影響を指摘

二酸化炭素の濃度上がれば花粉量も増加

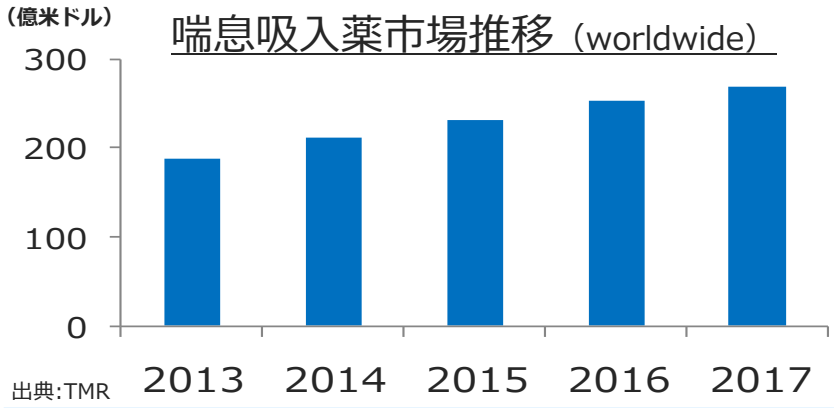
報告書によると、欧州のほとんどの場所では10～20年前と比べて草木の成長時期が早まったうえ、生育期間も長期化しているという。さらに大気中の花粉量も増加。土地の使い方が時代とともに変わり、気温や二酸化炭素の濃度も変化したことが理由とみられるが、各要素がどのように作用し合って花粉量に影響を及ぼしたかは明確になっていない。だが実験レベルでは、二酸化炭素の濃度が2倍になると、ブタクサの花粉量が6割増になったとしている。

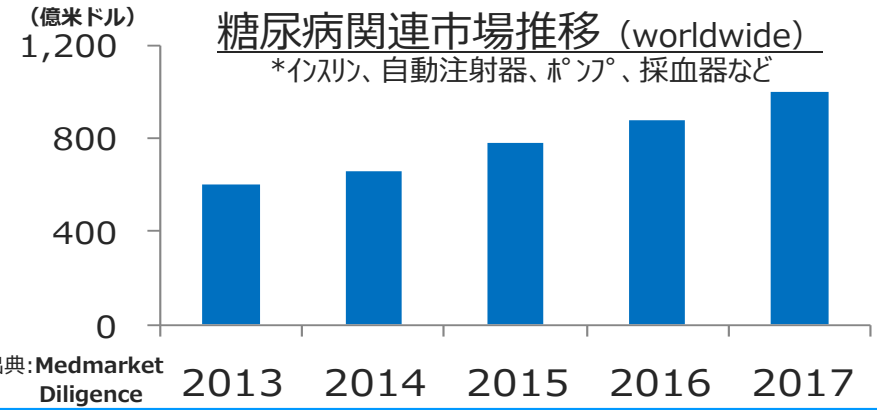
「J-cast ﾆｭｰｽ」から抜粋

世界の糖尿病人口は4億人を突破

国際糖尿病連合(IDF)の発表によると、世界の糖尿病人口は爆発的に増え続けており、2015年現在で糖尿病有病者数は4億1,500万人に上り、昨年より2,830万人増えた。有効な対策を施さないと、2040年までに6億4,200万人に増加すると予測している。

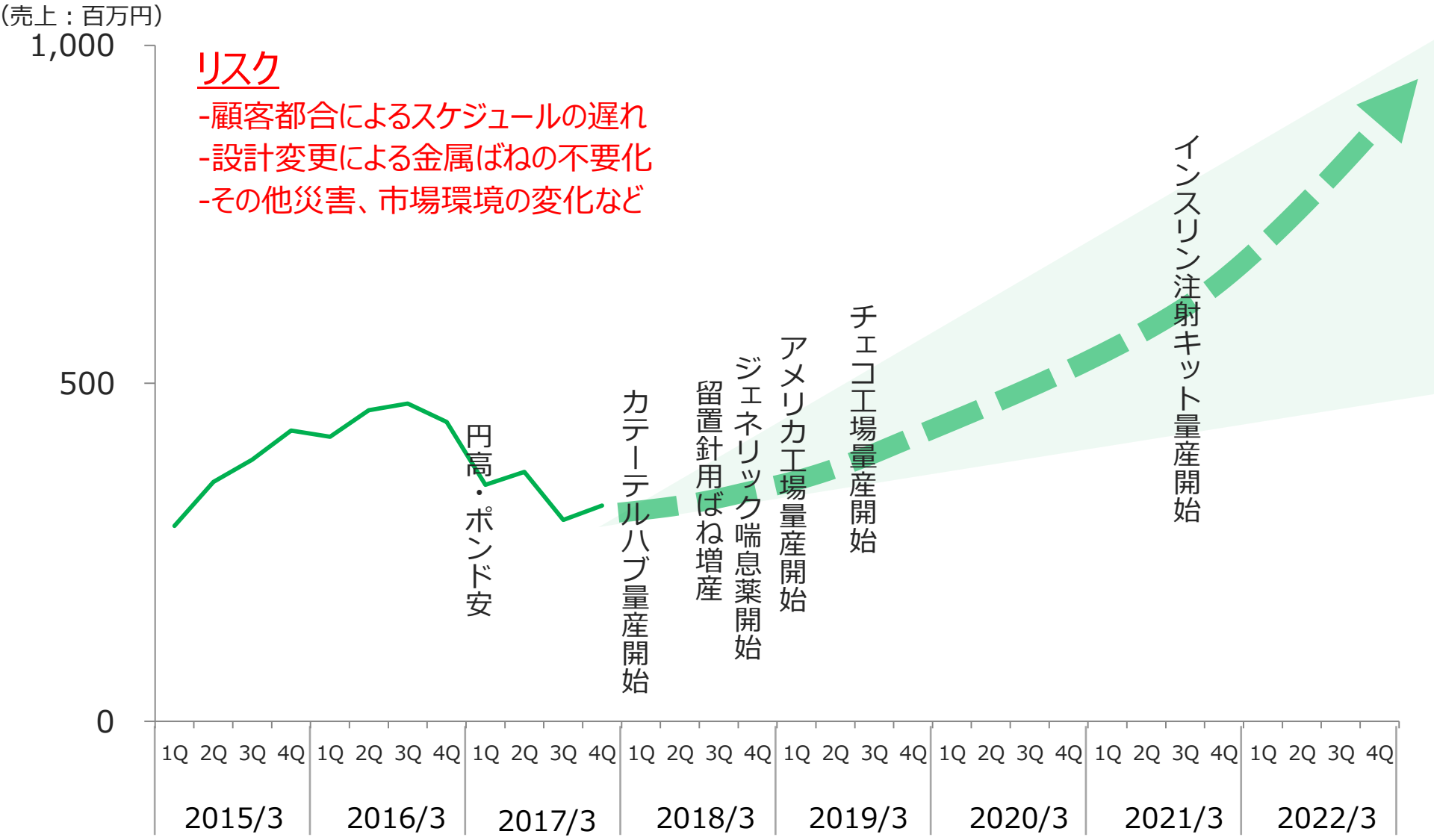
「糖尿病ﾈｯﾄﾜｰｸ」から抜粋





4-3④.　医療市場：イベントと売上見通し

ブレイクスルーはインスリン注射キット開始の2021年ごろ



4-4①.　規格品：タングレス・インサート

アルミ、CFRPなどの軽量材のねじ穴を補強

(軟質材に直接ねじを挿入するとねじ山が壊れる)

タングレス・インサートと挿入工具



使用例



ボルト締め

挿入後

挿入前



カットサンプル

4-4②.　規格品：タングレス・インサート

航空機・高速鉄道の軽量化と規模拡大が売上増の要因

有望市場



航空機

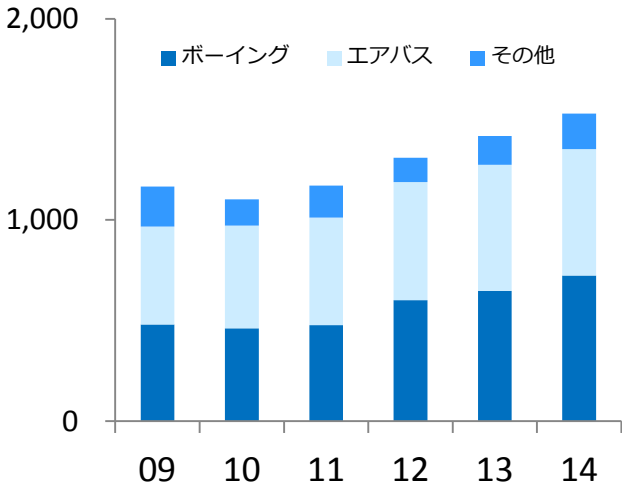
- CFRP、アルミリチウム合金の普及
- 海外渡航需要増を背景とした
  航空機生産数の増加



鉄道

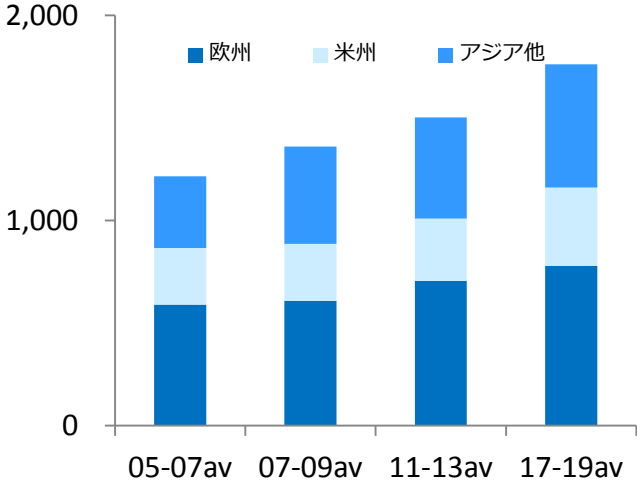
- アルミなどの軽量材が一般化
- 世界的に高速鉄道が普及

(単位：1機)　航空機生産台数



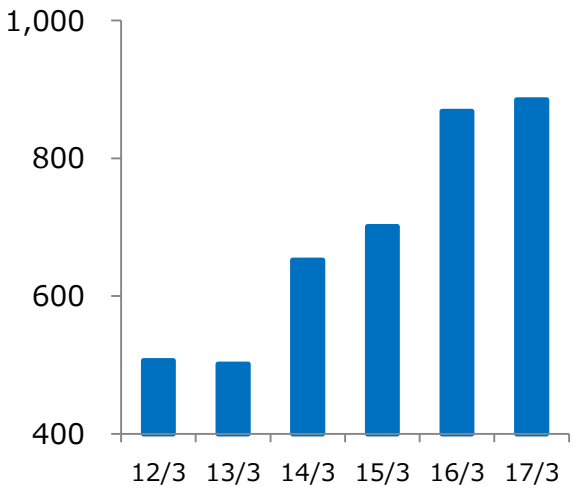
参照:日本航空機関開発協会

(単位：億1-□)　鉄道産業の市場規模



参照：UNIFE

(単位：百万円)　タングレス･インサート売上



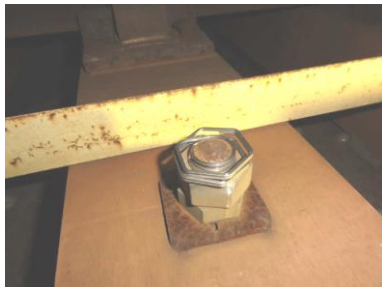
4-4③.　規格品：ロックワン

“ばね機構“のナット脱落防止具



ロックワン



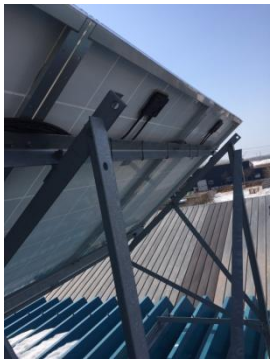


鉄道





道路橋梁





太陽光パネル

4-4④.　規格品：ロックワン

圧倒的な優位性を武器に置き換え・新規分野を狙う

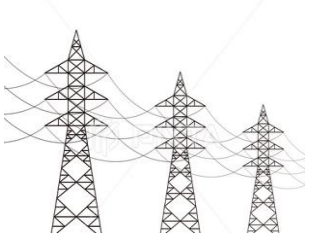
他社製品との比較

	緩み止効果	コスト	作業性
 ロックワン *当社	7.0/8.0	○ ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄは標準品	○ 作業工数が少ない
A社製	4.5	×	× 作業工数が多い
B社製	4.0	○	× 作業工数が多い
C社製	0.0	○	○

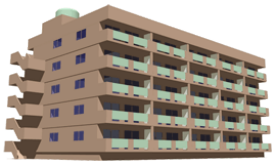
他社製からの置き換え分野


鉄道


道路


電力

新規分野


住設


ソーラーパネル


Eコマース、販社

「緩み止め効果」は某鉄道技術研究機関による調査、
「コスト」は販売価格を比較、「作業性」は当社による評価

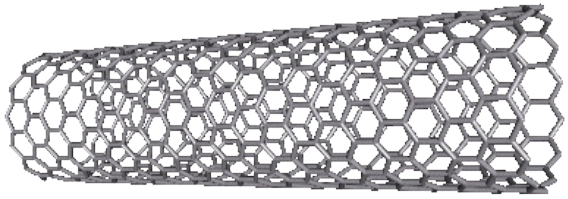
4-5①.　新事業：カーボンナノチューブ事業

ADVANEX

カーボンナノチューブとは？

- 名前の由来は「カーボン=炭素」「ナノ=ナノメートル」「チューブ=円筒」
- 元素は炭素。ダイヤモンドや黒鉛（鉛筆の芯）と同じだが異なる構造
- いくつもの優れた特性を持つ、世の中を大きく変えうる夢の素材

構造

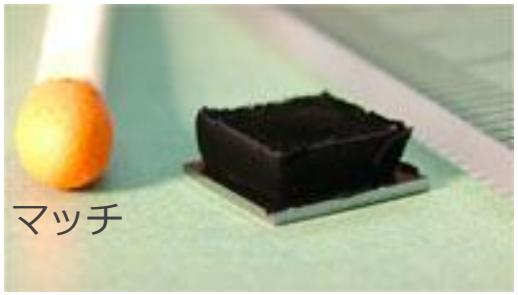


直径数ナノメートル
(髪の毛の5万分の1)

主な特性

重さ	アルミニウムの	1/2
導電性	銅の	1,000倍
熱伝導性	銅の	10倍
引張強度	鋼鉄の	100倍

合成されたカーボンナノチューブ



出典: NEDO

2015年、日本ゼオン㈱が世界で初めて量産化

宇宙エレベーター構想



出典:you-sokuhou.blomaga.jp

２０５０年の実現が目指されている

カーボンナノチューブは1976年に存在が示され、1991年に発見された新しい素材
現在の技術では長さ３cmが限度で、長いものを作るにはあと十数年かかると予測される

4-5②.　新事業：カーボンナノチューブ事業

- あらゆる形状に適用可能なフレキシブルヒーター
- カーボンナノチューブと電極設計を組み合わせた世界初の事業
- ブランド名「HEATNEX®」を商標登録

カーボンナノチューブ面状発熱体



信号機融雪装置



凍結した信号機



ヒーター使用後

サーモグラフィによる発熱チェック



HEATNEX ®の展開可能分野



住設



インフラ



農業



自動車



衣料



ロボット

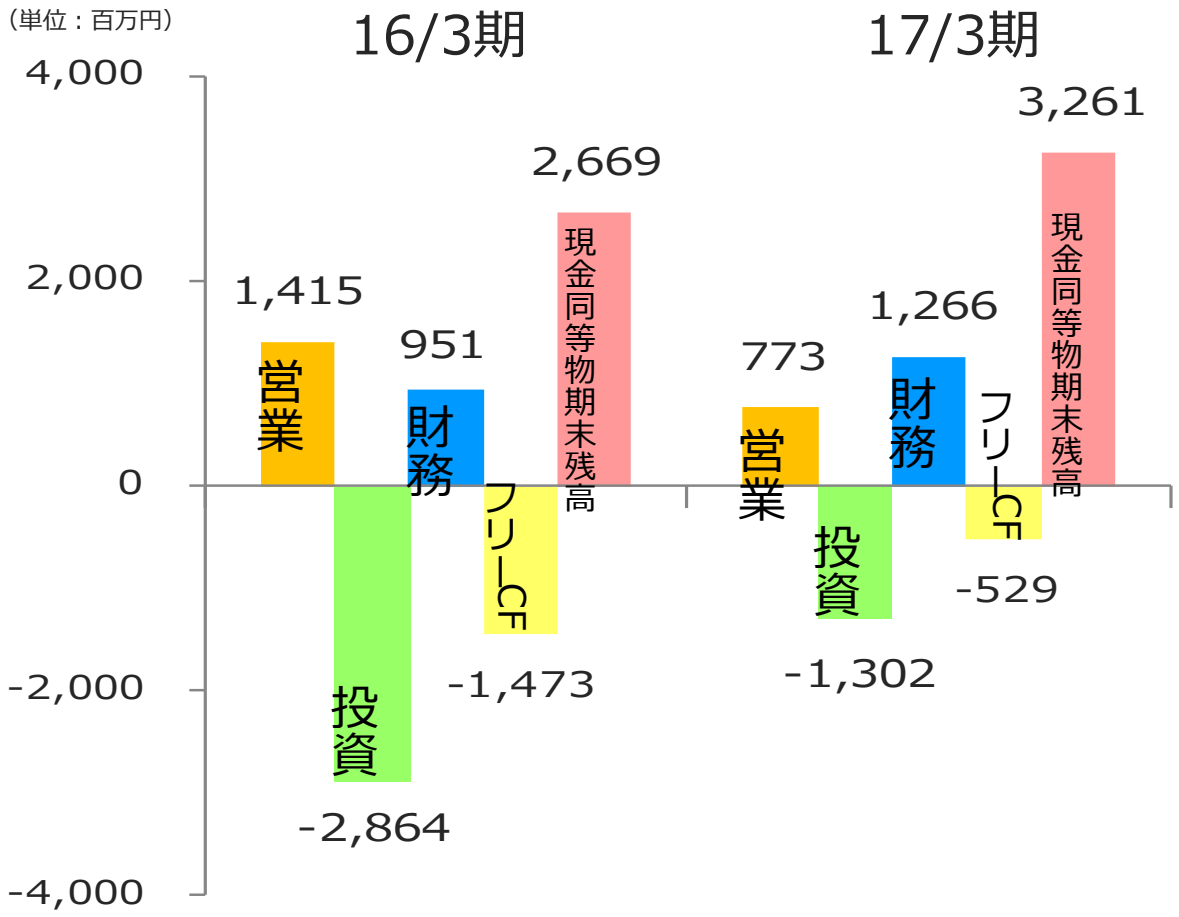
カーボンナノチューブは、ネットワーク化されると抵抗が発生することから、通電により発熱する
発熱効率はニクロム線ヒーターと比べ２５%の省エネ効果

（お問い合わせ先）

株式会社アドバネクス
総務部広報IR課
TEL　　：03 - 3822 – 5865
Email　：tsutomu_kumaki@advanex.co.jp
URL　　：http//www.advanex.co.jp

（参考資料）キャッシュフロー

キャッシュフロー推移



前期からの変動要因

営業活動によるCF

減価償却費による資金留保等により資金が**773百万円増加**

投資活動によるCF

埼玉工場やメキシコ第２工場の設備投資などにより
1,302百万円減少

財務活動によるCF

配当金支出の一方、
銀行からの借入れ等により資金が
1,266百万円増加

（参考資料）会社概要

〔社名〕
株式会社アドバネクス
（東証一部）

〔設立〕
1946年11月



〔事業内容〕精密ばね製品等の製造・販売

〔従業員数〕1,914名（連結）
358名（単体） ＊2017年3月末時点

〔連結対象子会社〕12社（国内1社、海外11社） *2017年1月末時点

〔売上〕 178億円 *2017年3月期

（参考資料）製品紹介

板ばね





線ばね



フォーミング加工

（参考資料）製品紹介



インサートモールド



深絞り加工

（参考資料）製品紹介

タングレス・インサート





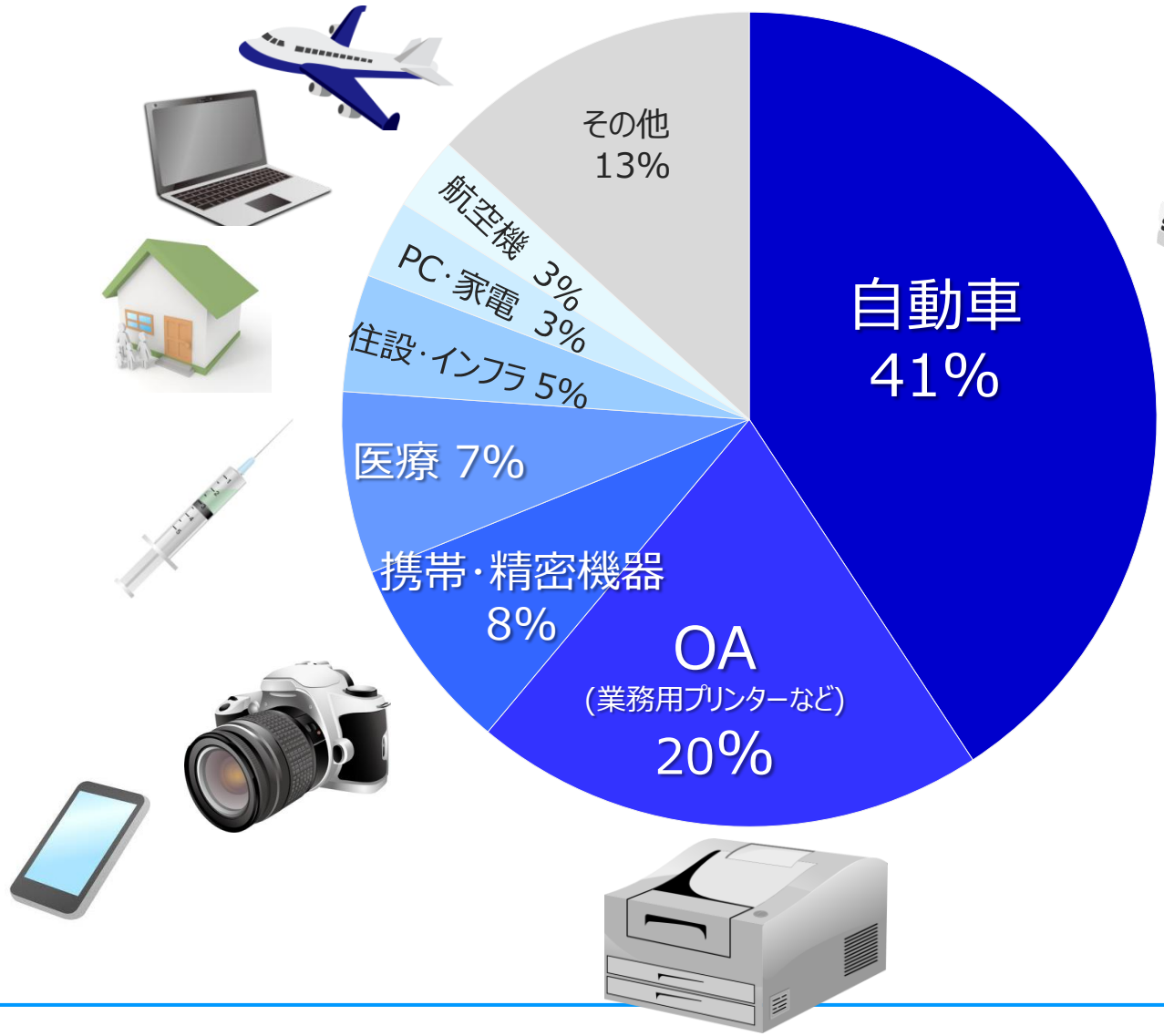
インサートカラー



ロックワン

（参考資料）売上構成

2017年3月期売上178億円の内訳



（参考資料）顧客

各業界のトップ企業が主要顧客

取引社数： 約2,000社
製品種類： 約15,000種

自動車
デンソー
ボッシュ
ケーヒン
パナソニック
日立AMS
他

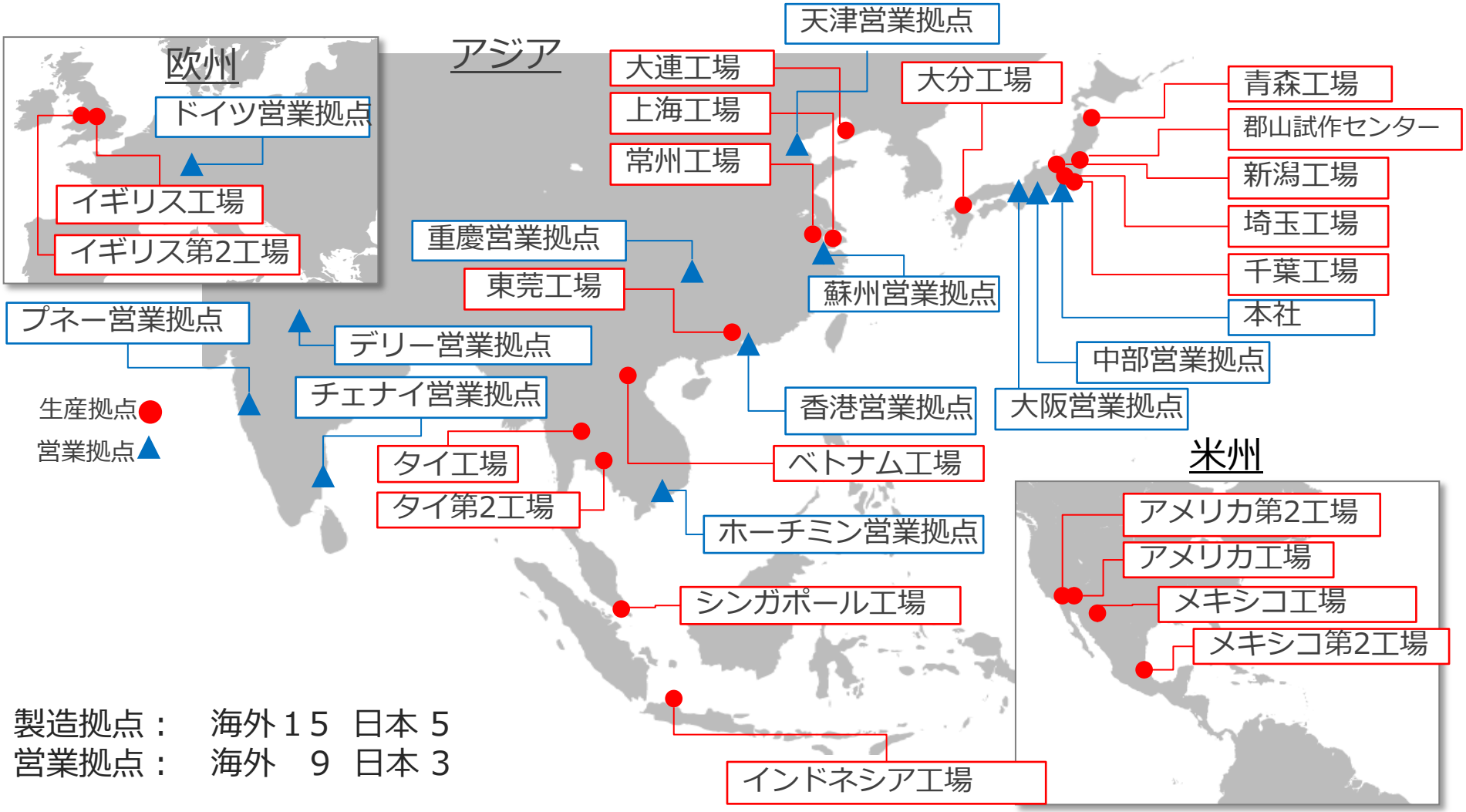
OA
キヤノン
レックスマーク
HP
他

医療
製薬海外大手
メディキット
オリンパス
HOYA
他

精密 他
キヤノン
ソニー
パナソニック
富士フイルム
他

（参考資料）国内外拠点

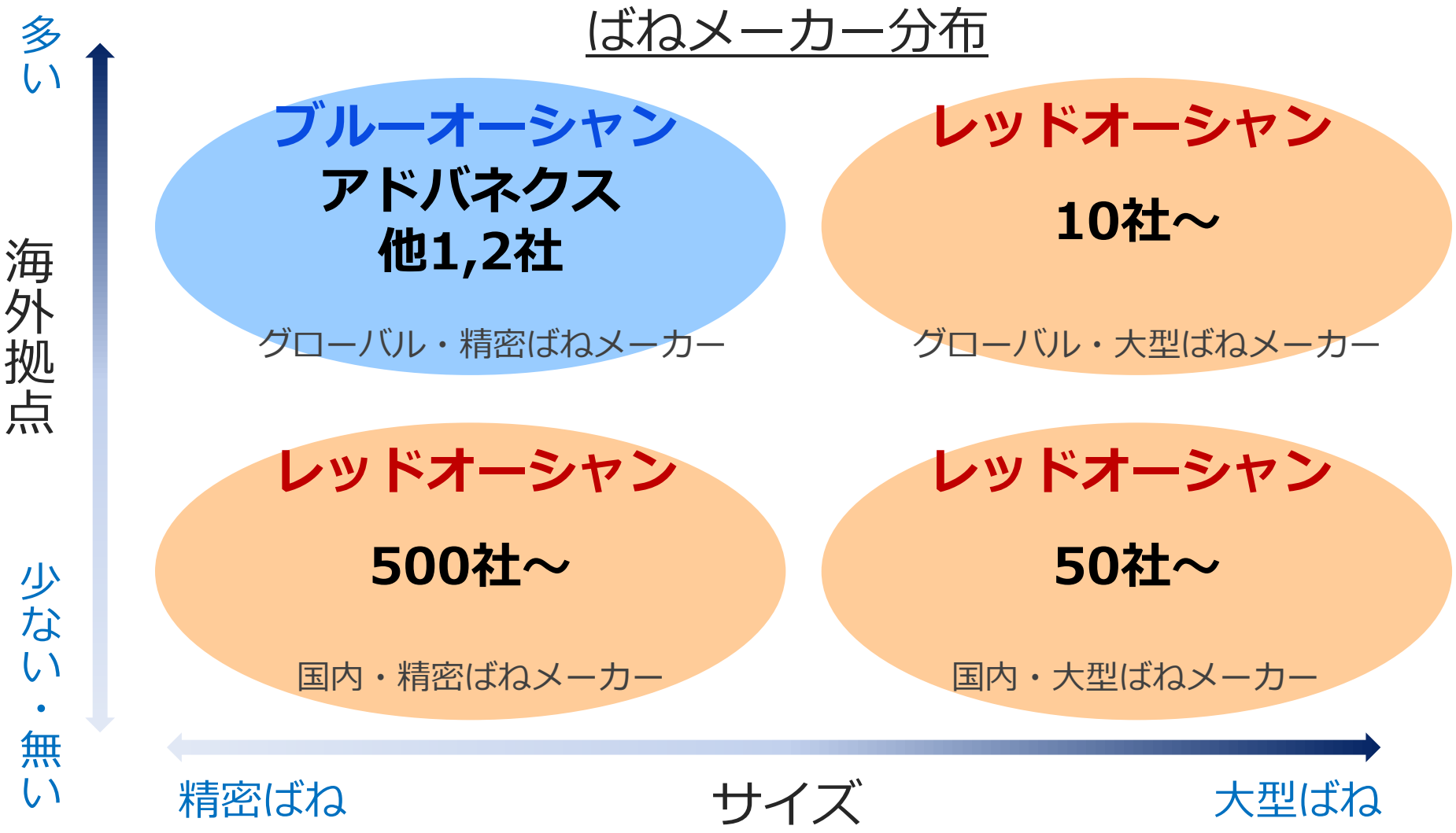
精密ばねメーカーでは最多の海外拠点数



製造拠点：　海外１５　日本 5
営業拠点：　海外　 9　日本 3

（参考資料）業界の位置づけ

ばね業界において“グローバルニッチ”のポジション



（参考資料）シェアNo.1製品

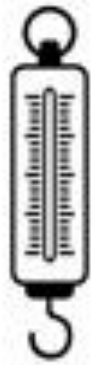
1946
設立

1980s

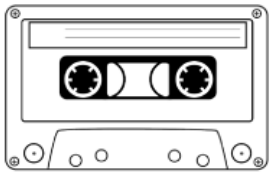
1990s

2000s

2010s



はかりばね
ｼｪｱ90%(国内)



音楽ﾃｰﾌﾟ用
ﾃｰﾌﾟﾊﾟｯﾄﾞ
70%(国内)



ﾌﾛｯﾋﾟｰﾃﾞｨｽｸ用
ｼｬｯﾀｰ
80%(世界)



携帯電話用ﾋﾝｼﾞ
50%(世界)



留置針用ばね
60%(国内)



ﾋﾞﾃﾞｵﾃｰﾌﾟ用
ﾘｰﾌｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ
50%(世界)



光ﾃﾞｨｽｸ用
ｾﾝﾀｰﾊﾌﾞ
90%(国内)

（参考資料）沿革

1930年　東京都江戸川区にばね専門工場を創業。

1946年　株式会社に改組、資本金を199千円で
「株式会社加藤スプリング製作所」を設立。本社工場を練馬区関町に置く。

1964年　東証二部上場。

1971年　カトウスプリングUSAをロサンゼルスに設立。
（初の海外進出）

1976年　新潟県柏崎市に新潟工場を建設し操業を開始。

1978年　カトウスプリング・シンガポールを設立
（初の海外生産拠点）



1957年頃の作業風景

2001年　株式会社アドバネクスに社名を変更。

2004年　東証一部に指定替え。

2014年　船橋電子株式会社を子会社化。



新潟工場

2015年　第一化成ホールディングス
（プラスチック事業）の全株式を譲渡。
埼玉工場設立。

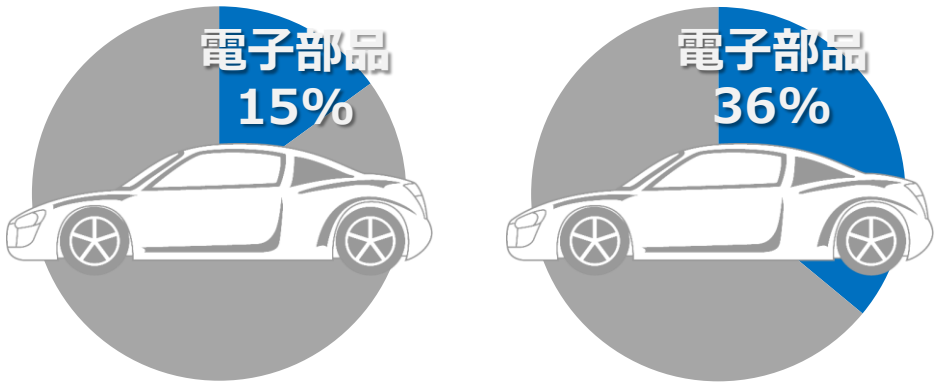


埼玉工場

（参考資料）自動車用電子部品需要の増加

自動車の電子化が進む
元々エレクトロニクスに強かった当社には追い風

電子部品が占めるコスト(普通車の場合)



＊ハイブリッド車の場合、電子部品コストは
2008年47%、2020年67%
＊電気自動車(EV)の場合は、
2015年70%以上

出典:日経ビジネス、経済産業省

電子制御の流れと当社部品



（参考資料）自動車用インサートカラー

軽量化のため、部品は鉄製からプラスチック製へ
ボルト締め部分を補強する、「インサートカラー」の需要が増加



インサートカラー

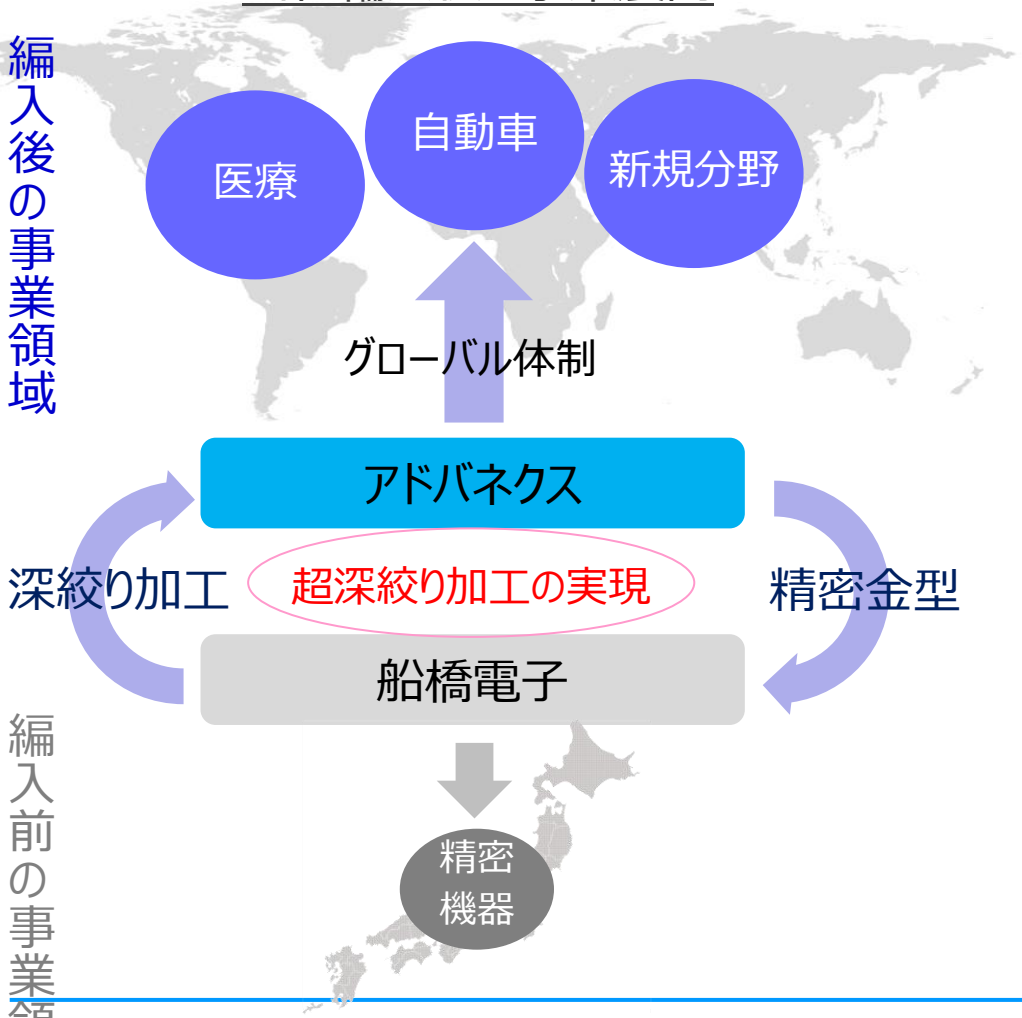


プラスチック製自動車部品

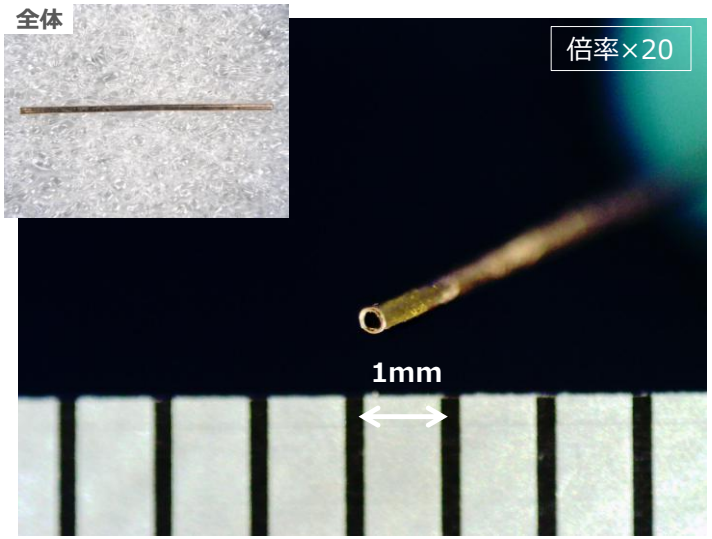
（参考資料）深絞り加工

2015年4月、深絞り加工の船橋電子を編入
当社金型技術と融合し世界最小径加工を実現。海外や自動車・医療分野にも展開

当社編入後の事業展開



最新の加工事例



極細加工（径0.3mm、長さ10mm）



D形状（曲面と平面）